

OSS Vulnerability Report

OSS脆弱性レポート 無料版

加工済み依存関係データと公開脆弱性情報に基づき、顧客回答 開発者確認 監査準備の前に全体像、確認候補、未確認範囲を把握するための無料版レポートです

この無料版では、自動照合で見えた事実、見えていない範囲、次に人が確認すべき論点を切り分けます。顧客提出用の完成文面や最終的な安全判断に進める場合は、追加情報と人による確認を加えて整理します。

無料版で得られる価値: 初動整理

無料版だけでも、依存関係の規模、公開脆弱性情報と照合できた範囲、既知脆弱性候補、照合対象外の理由を短時間で把握できます。顧客回答前の社内確認、開発者への最初の相談、監査記録の下地として使える初動整理の資料です。

- 無料版で把握できること: package名 version ecosystem scope relationship OSV/GHSA/CVE系ID 先頭IDへのOSVリンク 候補件数 照合対象外理由
- 無料版で始められること: 確認すべき候補の洗い出し 開発者への一次確認 顧客回答前の社内論点整理 監査記録の下書き
- 有料版で深めること: 追加情報と人による確認を加え、顧客提出文面、開発確認、監査記録、専門家レビューに使える形へ整理します。

初動確認目安の読み方

この確認目安は、無料レポート内で最初に見る順番を決めるための目印です。最終的な危険度、影響有無、顧客通知可否を断定するものではありません。

通常

無料版の自動照合では、優先確認を強く促す目印は出ていません。影響なしの証明ではないため、必要に応じて利用状況を確認してください。

要確認

候補あり version不明 private package 照合対象外など 初動で人が見るべき論点があります。

注意

候補数が多いなど 顧客回答や開発依頼の前に優先確認すべき状態です。

重要

secret候補など 初動の段階で送信停止または強い確認が必要な状態です。

1. 初動整理サマリー

入力dependency件数

0

要確認

照合対象dependency件数

6

脆弱性候補があるdependency件数

4

要確認

脆弱性候補件数

0

この無料版でまず得られること

- 入力dependency 0件の規模感と、公開脆弱性情報へ照合できたdependency 6件を確認できます。
- 既知脆弱性候補 0件 / 該当dependency 4件を、顧客回答前に見るべき候補として把握できます。

一次所見（一部プレビュー）

今回の入力範囲では dependency 情報を確認できませんでした。

入力ファイルの形式 対象プロジェクト 依存関係の記載有無を確認してください。

ほか、残り1項目あります。

一次所見の続きは有料版で出力します。

確認上の注意点

- 脆弱性候補があるdependencyが 4 件あります。顧客回答前に優先確認してください。

この章は、初動整理に必要な件数と確認論点だけを一覧化したものです。ここでの数値は自動照合の結果であり、影響有無や対応要否の最終判断ではありません。

2. 責任者向け初動判断メモ（一部プレビュー）

責任者向け初動判断メモ（一部プレビュー）

この無料レポートは 顧客回答前に社内で何を確認すべきかを整理できる初動資料です。

責任者は この資料を見て 既知脆弱性候補の有無 本番利用確認の必要性 顧客回答前に追加確認すべき範囲を判断してください。

この項目は無料版で表示できる範囲をすべて表示しています。

責任者が確認すべき判断ポイント（一部プレビュー）

1. 既知脆弱性候補があるため 顧客回答前に開発者確認と責任者確認を優先してください。
2. この無料レポートを社内確認用資料として扱うか 顧客提出用の文書として整える必要があるか。

ほか、残り4項目あります。

責任者が確認すべき判断ポイントの続きは有料版で出力します。

3. 顧客向け一次回答案（一部プレビュー）

無料版では、顧客回答の方向性をつかめるように先頭2項目まで表示します。そのうえで、顧客へ提出しやすい完成文面、確認済み事項と未確認事項の切り分け、対応予定の整理は有料版で行います。

当社の依存関係情報に基づく一次確認では現時点で有効なdependency情報を十分に確認できていません。

対象ファイルまたはSBOMの内容を再確認し 公開OSS名およびversionが確認できる情報をもとに追加調査を行います。

ほか、残り1項目あります。

顧客向け一次回答案の続きは有料版で出力します。

初動整理の次に有料版で行うこと

[有料]顧客提出用詳細レポート: このレポートの脆弱性候補 0件 / 該当dependency 4件 を起点に、追加情報がある場合に限り 顧客に提出しやすい文面へ整え 確認済み事項 未確認事項 対応予定を分けて記載します。

[有料]専門家レビュー付きレポート: 断定してよい表現 避けるべき表現 契約や監査で誤解されやすい表現を確認します。

4. 開発者向け確認事項（一部プレビュー）

無料版では、開発チームに最初に確認してほしい観点を先頭2項目まで表示します。具体的な確認手順、チケット文面、顧客回答へ反映するための整理は有料版で行います。

1. 既知脆弱性候補があるdependencyを優先して確認してください。
2. 対象dependencyが本番ビルドまたは本番実行環境に含まれるか確認してください。

ほか、残り5項目あります。

開発者向け確認事項の続きは有料版で出力します。

初動整理の次に有料版で行うこと

[有料]顧客提出用詳細レポート: このレポートの 無料版で確認できた候補と照合対象外理由 を起点に、追加情報がある場合に限り 開発チームへ依頼しやすい確認項目やチケット文面へ整理します。

[有料]専門家レビュー付きレポート: RCE 認証前到達 外部公開機能への影響など 自動処理だけで判断しにくい論点を確認します。

5. 入力データ概要

入力データ概要は、今回の自動照合で何を材料にしたかを示す記録です。private package名や内部利用状況など、追加確認が必要な情報も早い段階で把握できます。

入力種別	cyclonedx
dependency件数bucket	1_50
private package件数bucket	1_10
URL削除件数bucket	1_10
secret候補検出	検出なし

ecosystem別件数

分類	件数	確認目安
npm	9	通常

scope別件数

分類	件数	確認目安
runtime	7	通常
optional	2	通常

relationship別件数

分類	件数	確認目安
unknown	9	通常

照合可否分類

分類	件数	確認目安
queryable	6	通常
private	3	要確認

初動整理の次に有料版で行うこと

[有料]顧客提出用詳細レポート: このレポートでは入力dependency 0件のうち 照合対象dependency 6件、照合対象外または精度限定の項目 0件を把握できます。追加情報がある場合に限り private package名や内部利用状況も踏まえ、理由と確認に必要な情報を整理します。

[有料]専門家レビュー付きレポート: 入力データの不足が残る場合は 影響判断に使えない範囲と追加確認が必要な範囲を明示します。

6. 公開脆弱性照合結果サマリー

この章は、公開脆弱性情報との自動照合で見えた候補と、照合できなかった範囲を分けて確認するための内訳です。候補があることは影響ありの断定ではなく、候補がないことも影響なしの証明ではありません。

照合対象dependency件数	6
脆弱性候補があるdependency件数	4
脆弱性候補件数	0

照合対象外の理由別件数

該当データはありません

初動整理の次に有料版で行うこと

[有料]顧客提出用詳細レポート: このレポートで検出された脆弱性候補 0件 / 該当dependency 4件を、顧客回答前に見るべき候補として把握できます。追加情報がある場合に限り 候補ごとの確認論点と未確認事項を整理します。

[有料]専門家レビュー付きレポート: 重要度が高い候補や判断が難しい候補について 追加確認に必要な利用状況 到達可能性 修正版情報などの論点を明示します。

7. 優先確認項目

優先確認項目は、初動で見る順番を作るための自動並び替えです。脆弱性候補数が多いものを先にし、同数の場合は本番利用されやすいscope、直接依存、package名の順に表示しています。重大度 悪用状況 修正版の有無 顧客通知要否そのものの順序ではありません。無料版ではOSV ID列のOSVリンクは先頭1件だけです。2件目以降はIDのみ表示します。

既知脆弱性候補が検出された照合対象dependencyはありません。

ただし version unknown や private package や未対応ecosystem は照合対象外です。

初動整理の次に有料版で行うこと

[有料]顧客提出用詳細レポート: このレポートの優先確認表には脆弱性候補があるdependencyはありません。無料版の自動仕分けで初動の確認順を把握できます。追加情報がある場合に限り 顧客回答上 開発対応上 監査証跡上の目的別に、候補ごとの確認目的と未確認事項を整理します。

[有料]専門家レビュー付きレポート: 修正を急ぐべきか 顧客へ先に説明すべきかを保証せず 利用状況 到達可能性 修正版情報 影響範囲など追加判断に必要な論点を明示します。

8. 監査・委託先審査向けの記録

この章は、監査や委託先審査で後から確認しやすいように、無料版で自動生成した事実関係を残すための記録です。実際に確認した内容や不足している証跡を追記すると、監査説明や顧客説明の土台としてさらに使いやすくなります。

調査種別	加工済み依存関係データに基づくOSS脆弱性初動整理
入力データ種別	cyclonedx
入力dependency件数	0
公開脆弱性情報との照合対象件数	6
脆弱性候補があるdependency件数	4
脆弱性候補件数	0
照合対象外の主な理由	特記なし
追加確認が必要な代表項目	本番利用有無 該当機能の利用有無 外部到達可能性 修正版適用可否 顧客通知要否

初動整理の次に有料版で行うこと

[有料]顧客提出用詳細レポート: このレポートの自動生成記録には、入力dependency 0件、照合対象dependency 6件、脆弱性候補 0件、照合対象外または精度限定の項目 0件が残ります。追加情報がある場合に限り 確認済み範囲 未確認範囲 追加で残すべき記録を整理します。

[有料]専門家レビュー付きレポート: 監査人や顧客が疑問に持ちやすい可能性のある論点と 追加で確認すべき証跡候補を明示します。

9. レポート生成条件とデータ取扱い

以下は監査判断そのものではなく、この無料レポートを作成するための入力条件とデータ取扱いに関する情報です。初動整理の根拠を後から照合するための管理情報として扱ってください。

生ファイル送信	送信していません
private package名	匿名化または件数化しています
secret候補	検出なし
人による個別確認	無料版では自動生成結果として記録します
生成方式	提供された加工済み依存関係データと公開脆弱性情報に基づく自動生成

10. 初動整理の次に有料版で完成する内容

無料版では、ここまでの情報で調査の入口、確認すべき候補、未確認範囲を整理できます。今回の自動照合では、入力dependency 0件のうち 照合対象dependency 6件、脆弱性候補があるdependency 4件、脆弱性候補 0件を確認しました。この初動整理を顧客提出、開発依頼、監査説明に使える成果物へ進めるには、下記の続きと追加情報に基づく人の確認が有効です。

このレポートで有料版に進める具体的メリット

今回見えていること	有料版で具体化すること
脆弱性候補 0件 / 該当dependency 4件が検出されています。	候補ごとに 本番利用有無 到達可能性 修正版適用可否 顧客回答で触れるべき論点を追加情報と照らして整理します。
無料版では主要な入口文と確認項目を各2項目まで確認できます。続きとして合計 11項目が残っています。	未出力の所見、判断ポイント、顧客向け文面、開発者向け確認事項を、今回の検出結果に合わせて続きまで作成します。

あなたのケースで完成する成果物

有料版では、このReport IDの検出結果と追加情報を結びつけ、下記の成果物として完成させます。

有料版で完成する成果物	このケースで材料になる情報	完成に必要な追加情報
顧客提出用詳細レポート 顧客へ提出しやすい回答文、確認済み事項、未確認事項、対応予定のたたき台が完成します。	脆弱性候補 0件、該当dependency 4件、優先確認候補 0件をもとに、顧客へ説明すべき範囲と未確認として残す範囲を分けま す。	顧客からの質問文、回答期限、提出先、契約や委託先審査の前提
責任者向け判断メモ 責任者が承認前に見るべき論点、追加確認の要否、顧客回答前に止めるべき点が整理されます。	入力dependency 0件、照合対象dependency 6件、照合対象外または精度限定 0件を判断材料にします。	対象システム、サービス重要度、本番利用有無、外部公開有無、顧客影響の前提
開発者向け確認依頼 / チケット案 開発チームへ依頼する確認項目、確認観点、チケット文面、回答してほしい期限や粒度が整理されます。	優先確認候補 0件と、該当dependency 4件、照合対象外理由を使います。	対象dependencyの利用箇所、ビルド/実行環境、修正版適用可否、回帰テスト範囲
監査・委託先審査向け記録 何を自動照合できたか、何を未確認として残すか、追加で残すべき証跡候補が整理されます。	照合できた範囲 6件と、照合対象外または精度限定 0件を分けて扱います。	確認日、確認者、関連チケット、修正方針、追加確認結果、証跡URL

有料版で完成する成果物	このケースで材料になる情報	完成に必要な追加情報
<p>専門家レビュー付きレポート</p> <p>断定してよい表現、避けるべき表現、顧客や監査人に誤解されやすい論点が確認されません。</p>	<p>無料版で各2項目まで表示したうえで、未出力の続き 11項目と、自動処理だけでは判断しにくい候補や未確認範囲を対象にします。</p>	<p>利用状況、到達可能性、顧客要求、契約上の前提、既に実施した確認結果</p>

項目	無料版 で表示	未出力	有料版で行う整理
一次所見	先頭2項目まで	残り1項目	このレポートの検出件数と照合対象外理由に合わせ、候補の意味、未確認範囲、次に確認すべき順番を文章化します。
責任者向け初動判断メモ	先頭2項目まで	追加項目なし	このレポートの脆弱性候補件数、照合対象外件数、優先確認候補をもとに、責任者が見るべき判断材料へ整理します。
責任者が確認すべき判断ポイント	先頭2項目まで	残り4項目	今回の候補に対して 本番利用、到達可能性、修正要否、顧客通知要否を確認する観点へ展開します。
顧客向け一次回答案	先頭2項目まで	残り1項目	このレポートで確認済みの自動照合結果と未確認範囲を分け、顧客提出前提の文面へ整えます。
開発者向け確認事項	先頭2項目まで	残り5項目	このレポートの候補dependencyや照合対象外理由に合わせ、開発チームに依頼しやすい確認項目やチケット文面へ展開します。

有料版で続きを作成する際に必要な情報

- Report ID: rpt_20260526180913_e3ce33b75a641f36
- 対象システム サービス名 本番利用有無
- 顧客からの質問文 回答期限 提出先の前提
- 対象dependencyの利用箇所 外部公開有無 認証前到達可能性
- 修正版の適用方針 回避策 回帰テスト範囲
- 監査 委託先審査 顧客説明など提出目的

無料版で見えた候補と未確認範囲に上記の追加情報を合わせることで、顧客提出、開発確認、監査記録に使える形へ整理できます。

11. 免責・注意事項

ストラテジアの責任範囲について

本レポートは 利用者が提供した加工済み依存関係データと公開脆弱性情報をもとに自動生成した参考資料です。

株式会社ストラテジアは 本レポートの内容をもって 入力データの完全性 公開脆弱性情報の網羅性 実環境での影響有無 顧客提出の適否 契約上または法令上の通知要否を保証しません。

本レポートは脆弱性診断 侵入テスト ソースコードレビュー 到達可能性解析 法的判断 契約判断を代替するものではありません。

最終的な影響判断 顧客提出 リスク受容 修正方針 顧客通知の要否は 利用企業の責任で確認してください。

無料レポートでは ストラテジア担当者による個別確認 専門家レビュー 顧客提出文書としての保証は含みません。

- 本レポートは提供された加工済み依存関係データと公開脆弱性情報に基づく自動生成の初動整理資料です
- 本レポートは脆弱性診断 侵入テスト ソースコードレビュー 到達可能性解析 契約上または法令上の通知義務判断を代替しません
- 本レポートはCVSS 重大度 EPSS 悪用状況 修正版候補 本番影響 顧客通知要否を断定しません
- 本レポートは入力データの完全性 依存関係解決の完全性 公開脆弱性情報の網羅性 実環境における影響有無を保証しません
- version unknown の依存関係は既知脆弱性照合の精度が限定されます
- private package は公開脆弱性情報との照合対象外です
- 最終的な影響判断 顧客提出 リスク受容 修正方針の確定は利用企業の責任で確認してください
- 株式会社ストラテジアは無料レポートの内容について個別確認 専門家レビュー 顧客提出文書としての保証を行いません

発行管理用情報

この情報はレポートの再確認や問い合わせ時の照合に使うための管理情報です。レポート本文の判断内容そのものではありません。

Report ID	rpt_20260526180913_e3ce33b75a641f36
生成日時	2026-05-26T09:09:16.487Z
入力種別	cyclonedx

有料版で解放される続き: あなたのケースで完成するもの

無料版では、今回の依存関係データから調査の入口、確認候補、未確認範囲までを整理しました。有料版では、このReport IDの検出結果と追加情報を結びつけ、顧客提出、責任者判断、開発依頼、監査説明に使える成果物として完成させます。

未出力の続き 11項目	脆弱性候補 0件	該当dependency 4件	優先確認候補 0件
-----------------------	--------------------	---------------------------	---------------------

有料版で完成する成果物	このケースで材料になる情報	完成に必要な追加情報
顧客提出用詳細レポート 顧客へ提出しやすい回答文、確認済み事項、未確認事項、対応予定のたたき台が完成します。	脆弱性候補 0件、該当dependency 4件、優先確認候補 0件をもとに、顧客へ説明すべき範囲と未確認として残す範囲を分けま	顧客からの質問文、回答期限、提出先、契約や委託先審査の前提
責任者向け判断メモ 責任者が承認前に見るべき論点、追加確認の要否、顧客回答前に止めるべき点が整理されます。	入力dependency 0件、照合対象dependency 6件、照合対象外または精度限定 0件を判断材料にします。	対象システム、サービス重要度、本番利用有無、外部公開有無、顧客影響の前提
開発者向け確認依頼 / チケット案 開発チームへ依頼する確認項目、確認観点、チケット文面、回答してほしい期限や粒度が整理されます。	優先確認候補 0件と、該当dependency 4件、照合対象外理由を使います。	対象dependencyの利用箇所、ビルド/実行環境、修正版適用可否、回帰テスト範囲

有料版で完成する成果物	このケースで材料になる情報	完成に必要な追加情報
<p>監査・委託先審査向け記録</p> <p>何を自動照合できたか、何を未確認として残すか、追加で残すべき証跡候補が整理されます。</p>	<p>照合できた範囲 6件と、照合対象外または精度限定 0件を分けて扱います。</p>	<p>確認日、確認者、関連チケット、修正方針、追加確認結果、証跡URL</p>
<p>専門家レビュー付きレポート</p> <p>断定してよい表現、避けるべき表現、顧客や監査人に誤解されやすい論点が確認されます。</p>	<p>無料版で各2項目まで表示したうえで、未出力の続き 11項目と、自動処理だけでは判断しにくい候補や未確認範囲を対象にします。</p>	<p>利用状況、到達可能性、顧客要求、契約上の前提、既に実施した確認結果</p>

このReport IDで続きを作成します

Report ID: rpt_20260526180913_e3ce33b75a641f36

対象システム、顧客からの質問文、回答期限、本番利用有無、到達可能性、修正方針を追加すると、この無料版で見えた候補と未確認範囲を、実際に使える有料版レポートへつなげられます。